

『星陰りて、謀り響く』  
PC2 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: セレナーデ

ネタバレ防止用ページ

どくはく  
独白。

私は知っている。この世界の隙間<sup>すきま</sup>には、むごたらしい陰謀論<sup>いんぼうろん</sup>が息づ  
いていることを——陰謀論者の集う『夏音<sup>かのん</sup>』には、悪魔<sup>あくま</sup>も殺人鬼<sup>さつじん</sup>も棲  
まうことを。

私は犯人でない。私も夏音のリーダー『フーガ』を殺そうとしたが、  
ナイフで刺したモノは死骸<sup>しがい</sup>だった。

Dear Aoi

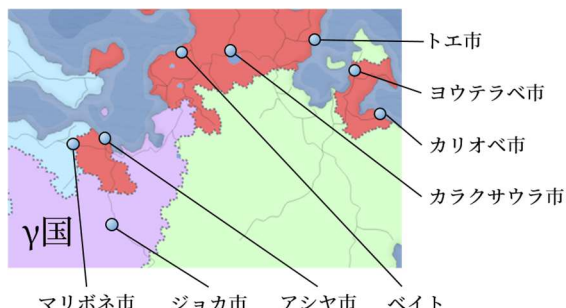
## キャラクター設定

本名	自由
あだ名	レン
コードネーム	セレナーデ Serenade
年齢	27 歳
性別	自由（ <small>ぼくっこ</small> 僕っ娘大歓迎！）
一人称	自由（ここでは仮に「僕」としています）
容姿	自由
誕生日	5 月 20 日（おうし座）
血液型	O 型 Rh(+)
出身地	χ 国東飛び地 「ヨウテラベ」 市
職業	爆発物を扱う職業（建築、花火師、火薬製造など）。夏音加入後も専属ではなく、その職業を続けている。
性格	アオイ大好き。
その他の設定	<small>おきななじみ</small> 幼馴染のアオイとは高校まで一緒にいた。

# 幼馴染の設定

本名	アリアケ・アオイ
コードネーム	アリア Aria
性別	自由（決まったら早めに GM に連絡）
一人称	自由（決まったら早めに GM に連絡）
容姿	自由（決まったら早めに GM に連絡）
誕生日	11 月 30 日（いて座）
血液型	O 型 Rh(-)
出身地	χ 国東飛び地 「ヨウテラベ」 市
職業	図書館員
性格	明るく、冷静。
その他の設定	<u>レン（セレナーデ）</u> と幼馴染。国立コウトスミ大学文学部に 進み、大学・修士課程では民俗学・考古学を専攻。 <small>きょうねん</small> 享年 25~26 歳。生きていれば、ちょうど 27 歳。
年齢	
命日	201 年 11 月 29 日と推定されている。
死因	自殺と報道

# 追憶 生い立ち～アオイの死



27 年前、僕とアオイは東飛び地のヨウテラベ市で生まれた。生まれたのは僕が先だ。5 月 20 日。アオイは 11 月 30 日。

「大げさだなあ、レン（アオイは僕をそう呼んでいた）は。同じ年じゃん」ってアオイは笑うだろうけど、年上だから守らなくちゃって、僕はずっとそう思っていたんだ。

ヨウテラベ市はいい街だ。中学生くらいの時、カルト集団の本部があると報道され、悪い意味で有名になってしまったが、それ以外は平和な町だった。

しかし、アオイは地元を離れた。遠く、北西飛び地の大学に合格してて、僕は地元に残る。だから、最後の思い出が欲しかった。二人の、卒業旅行の計画を立てた。

東飛び地から、本国を横切って、南西飛び地へ、<sup>ガンマ</sup>γ 国へ。本国に着いたばかりの僕ら二人は、はしゃいではぐれてしまった。「トーラス」。何の名前か忘れたけど、おかげでそんな小さな事件もことなきを得た。

カラクサウラ。ベイト。アシヤ。マリボネ。目的地のγ国ジョカ市についたころには、二人ともヘトヘトで遺跡<sup>いせき</sup>を見てまわった。行きはゆっくりの 8 日間、帰りは最短ルートで 2 日間。合計 10 日かけて、各地に僕らの記憶<sup>きざ</sup>を刻んだ。

そうして、アオイは北西飛び地へ<sup>た</sup>発った。はなれた後も SNS で繋が<sup>つな</sup>がっていたけど、お互いに忙しくて、あまり連絡を取らなくなってしまった——ウソだ。<sup>みょう</sup>妙にこっばずかしくなった僕は、メッセージを送れなくなっていた。

高校卒業から 3 年後、今から 5 年前。2 か月ぶりくらいの連絡がきた。

心おどる指先は、内容を見て固まる。

「レンに紹介したい人がいる」

待ち合わせ場所には、美しく聡明<sup>そうめい</sup>に成長したアオイがいて、その隣には。

「その人は？」きっとそう質問した。

「恋人だよ」アオイはあっさり答えた。

ほほえみあう二人に、偽<sup>いつわ</sup>りの影<sup>かげ</sup>は見えない。僕はわけのわからない感情に襲<sup>おそ</sup>われた。

答え合わせができたのは、アオイの穏やかな死に顔を見た時だった。

199 年 7 月。国際的な経済不安がχ国をまるごと飲み込んだ。本国ほど打撃を受けなかったヨウテラベ市には、仕事を求めて懐かしい顔ぶれがもどった。翌年の 4 月には、修士課程を終えたアオイも加わった。

アオイはヨウテラベ市の市立図書館に就職した。僕も仕事帰りにアオイをさそったり、一緒に晩ご飯を食べたりして、ぎこちなかった関係も少しずつ昔どおりになっていった。

恋人との交際も順調のようだった。何度かは 3 人でご飯も食べた。幸せそうなアオイを見ながら、これでもいっかと、僕は納得していた。これでいい。

一年ほどして、歯車の狂う音がした。

アオイの恋人との連絡が途絶えた。電話がつながらない。うろたえるアオイを、僕はとなりで見守ることしかできなかった。アオイはみるみるやせ細っていった。進展がないまま半年が経ち、アオイの誕生日が近づいていた。

そのころには、アオイも多少は落ち着き、はた目には元気そうにもみえた。それでも、ふと遠くを見つめているアオイを励ましたくて、僕は誕生日パーティーを計画した。アオイも賛成した。

「いいね。レンの誕生日もちゃんと祝えてなかったし」

プレゼントは何にしようか。そういえば、アオイは最近、星座について調べているとアオイの同僚から聞く。いて座のケーキ……ってダサいか……。アクセサリー？ 宝石？ 恋人でもないのに変かな？ なんてね。

誕生日パーティーの前日、雪の降る晩にアオイは行方不明になった。図書館に行っても帰宅したと言われ、電話をかけても出ない。僕も、アオイの家族も、地元の友達も、警察も、総出で検索した。でも、見つかるのは痕跡だけで、肝心のアオイはどこにもいない。

恋人と連絡がつかなくなった時、アオイもこんなに苦しかったのかな？ あの時の僕は、心のどこかで喜んでいた。軽率に誕生日パーティーなんて企画していた自分が嫌になる。幼馴染失格だ。自らを責めることしかできない 3 日ののちに、アオイが見つかった。

朝、何のゆかりもない廃ビルで見つかったアオイは、ひどいありさまで――

間違いなく自殺とのことだった。

## 追跡 アオイの死～夏音加入後

ああ、僕はアオイの傍<sup>そば</sup>にいたかったんだ——。

20 年以上抱えていた問題は、二度と叶わなくなって初めて答えられた。

弓矢のブローチ。金属類は火葬できないから、と棺桶には入れさせてもらえなかった。

だから、寝姿に、上下しない胸に押し当てて、満足することにした。よく似合っていた。2 時間かけて選んだブローチは美しく聡明なアオイに、とてもよく似合っていた。

満足できるわけがなかった。

お葬式の帰りに、メモを読んだ。以前、「私がいなくなったら読んでね」と渡されていた紙だ。本当はアオイが失踪<sup>しっそう</sup>した晩に読むべきだったのだろう。しかし、アオイがいなくなったことを否定して、僕は今の今まで開<sup>ひら</sup>けないでいた。アオイの苦悩を直視しなかった僕は、目を逸<sup>そ</sup>らしていた。

アオイのことは、ある程度なんでも知っているつもりだった。でも——。

「キーワードは夏音。パスワードは bwv1068。スマホかパソコン、どっちかだけでも見てもらえると嬉しいな」

でも、このメモは一体、何だ？ 僕の知らないところでアオイは何をしていたんだ？

アオイがずっと持っていたはずのスマホは見つからず、パソコンは警察が持っていっただま。唯一、僕に残された手掛<sup>てが</sup>かりは——。

夏音。

僕も一度は聞いたことのある、怪しい組織。理性的なアオイがあのかかバカバカしい陰謀論を信じていたとは思えない。それでも、メモに遺<sup>のこ</sup>したからには理由があるはずだ。

事件の真相を手繰<sup>たぐ</sup>るように、僕は夏音と接触<sup>はか</sup>を図った。オンライン講習会やら合宿やらを経て、今から 3 か月前、僕は夏音の実体に触れることに成功した。爆発物の知識を見込まれ、夏音の実行部隊に配備された僕は——私はセレナーデと呼ばれるようになった。

私が『セレナーデ』になってから、わかったことが 3 つある。

実行部隊という物騒<sup>ぶっそう</sup>な名前とは裏腹<sup>うらはら</sup>に、その正体はおどろくほど穏やか<sup>おだ</sup>なものだった。



サバイバルナイフを渡された時こそびっくりしたが、『作戦内容』はせいぜいビルの中に潜入して写真を撮る、くらいで、ただの観光客とやることは変わらない。爆弾作成を手伝うこともあったが、いつ見ても使われた形跡<sup>けいせき</sup>はなかった。

隊員はみな温厚で、隊長のララバイは親身になって相談に乗ってくれた。

2つ目にわかったのは、アオイが夏音に所属していたことだった。アオイは夏音の中で「アリア」と呼ばれていたそう。高校時代のあだ名そのままだった。

実行部隊隊長のララバイは、よくアリアの話をしてくれた。ララバイは私の知らないアリアをたくさん知っていた。私も返すようにアリアの思い出話をした。アリアがいなくなったあの晩の話も。

「誕生日パーティーの予定が、お葬式になっちゃいました」

自嘲<sup>じちようぎみ</sup>気味に話すと、ララバイは顔を伏せ、線香の一つも上げに行かなかった非礼<sup>ひれい</sup>をわびた。そのころララバイは離れた場所で任務をしていたらしい。

悔しそうなララバイは、せめてアリアの死に顔はどうだったかと知りたがった。

「綺麗<sup>きれい</sup>でした」

ひとこと告げると、ララバイは「よかった」と繰り返す。寂しそうなほほえみに大粒の涙がつたった。

3つ目にわかったのは、アリアをほとんどの人が知らないことだった。アリアは2年前、地元に戻ったときに、夏音を抜けていた。スパイ対策のため、夏音は元メンバーとの接触を禁じていたため、話題に上がることもなかったという。加えて、夏音のメンバーはニュースを見ないよう『指導』されていた。

「爆弾専門家、初仕事だ」

アリアの一周忌を目前に、ララバイから連絡がきた。多くの幹部が集<sup>つど</sup>うその場は、アリアのことを調べる絶好の機会かもしれない。

僕への誕生日プレゼントとして、アオイが用意してくれた箱がある。アオイのスマホを探しているときに見つけたが、ずっと開けられずにいた。

「もう、開けていいかな？」

箱の中には、腕時計が入っていた。星がデザインされた、アオイらしいチョイスだ。

腕時計を痛いくらいに締めつけて、僕はウラミワ市の隠れ家へ向う。

## 事件の記録

フーガが死んだことはどうしてもよくて、事件といえばアオイが死んだあの日のことだ。でも、ほかの人と話を合わせるために、フーガが殺されたことを「事件」と呼ぼう。

### 隠れ家到着前

家を出る前に、遺影に手を合わせて、アリアのスマホの位置を確認した。気づいたら入っていたこの位置確認アプリは、アリアが勝手に入れたのだろう。確認、といってもスマホの位置は1年前から更新されず、長旅前の「ってきます」がわりだった。

そのはずだった。

位置情報が更新されていた。11/28。場所はウラミワ市。隠れ家の位置に、アリアのスマホはあった。すぐに電源を消したのか、位置情報を発信していたのは10分足らず。

しかし、夏音の隠れ家にアリアのスマホがある。夏音の中に殺人鬼がいる証拠。

僕は、カバンにナイフを詰めた。

### 隠れ家到着～隠れ家出発

11/29 20:00 途中でララバイと合流し、ウラミワ市に到着。隠れ家に行くと、ほかの人はすでに着いていた。

21:00～ 顔合わせと作戦会議。そこで私は目を見張った。  
カプリッチオと名乗ったのは、かつてのアリアの恋人だった。一体何をのほほんとしてやる。

会議自体は1時間ほどで終わった。

22:15 シンフォニーが外出した。ほかの人はリビング・ダイニングに残ったまま、好き勝手にしていた。私はララバイと爆破計画の詳細を詰めていた。カプリッチオが話しかけようとしてきた。無視した。

22:30 キャロルが大きな天体望遠鏡とお酒をもって外出した。アリアも星が好きだったな。

23:17 カプリッチオが2階へ上っていった。爆弾を設置するため、車でララバイとファロス灯台へ向かった。入れ違いでシンフォニーが帰ってきた。すれ違いざま、アルコールとタバコのおい。お気をつけて、とシンフォニーの声になぜか聞き覚えがあった。

## ファロス灯台爆弾設置～3 階潜入

- 23:29                      ファロス灯台に着いた。
- 23:30                      ファロス灯台に侵入して、爆弾を設置した。起爆スイッチはララバイ  
～11/30 01:30 イが持った。 ボタンを覆うカバーはララバイかフーガの指紋で開く。  
                         ララバイとはいろんな話をした。主な話題はアリアだった。アリア  
                         は星が好きだった、とかそんな話だ。隠れ家 3 階への隠し扉について  
                         も教えてもらった。壁に手を当てて歩くとわかりやすいらしい。  
                         設置が終わると、ララバイは荷物の中から蜂蜜酒を取り出した。地  
                         元の名産なのだという。  
                         「すこし、星と飲んでから帰るよ。セレナーデもどうだい？」  
                         ララバイからアリアの話も聞いたかったが、スマホ探しが先だ。
- 01:36～01:46              車でファロス灯台を離れた。あの晩と違って、星がよく見える。
- 01:46                      隠れ家に着くと、リビングにはシンフォニーがいた。  
                         シンフォニー「ララバイはどうしたのですか？」  
                         セレナーデ「先に帰れといわれました。」  
                         そんな会話をしながら、2 階へ上っていった。
- 01:50                      自分の部屋でフーガに変装した。以前、実行部隊の倉庫から変装道  
                         具を盗んでいたのだ。
- 01:54                      耳をすませるとカプリッチオの部屋のほうから話し声がする。見ら  
                         れないように、階段に近いドアから部屋を出た。
- 01:55                      カプリッチオの部屋の前の窓で、カプリッチオとキャロルが話して  
                         いた。壁に手を当てながら歩いていると、カプリッチオが体調を心配  
                         してきた。首を振ってこたえた。声を出すと変装がばれてしまう。  
                         ララバイのおかげで、隠し扉は簡単にわかった。
- 02:01                      奥の扉がフーガの部屋だろう。意外にも鍵はかかっていたい  
                         なかった。  
                         周りに人がいないことを確認して、位置確認アプリを開いた。表示  
                         されている最終位置は間違いなく、この隠れ家を指していた。
- 02:01～02:20              奥に書斎へのドアを見つけた。そのドアノブを、私はゆっくりと回  
                         した。

## フーガの死体発見～朝

02:22 血の匂いが立った。私が見つけたのはフーガの死体だった。死後 1 時間は経っているだろう。どうしよう、どうしよう。誰かに言うべきか、黙っておくべきか。フル回転する頭が、そのとき、ふと。一つの真実に行き当たった。

「脱退したメンバーとの接触を禁じる」「ニュースを見てはいけない」  
こういった夏音のルールは、バカバカしい妄想でもメンバーを守る防壁でもなかった。

アオイは二度、冒涇された。

夏音による計画的殺人と組織的隠蔽によって。

02:32 気付けば、僕は血まみれになっていた。握ったナイフは壊れた機械みたいに、フーガを刺していた。先に死んでなかったら、とっくに死んでいただろう。手には心地よい感触が残っていた。

02:32 いくらか冷静さを取り戻した私は、アリアのスマホをあきらめ、この状況から抜け出すことにした。部屋を見渡すと、床が一か所不自然に見えた。よくよく調べてみると、脱出用だろうか、下へまっすぐ伸びる隠し穴が見つかった。縄梯子もある。

02:34 降りていくと、ドアのない小さな空間になっていた。さらに床を外すとララバイの部屋の真上で、下にベッドが見えた。

覚悟を決め、飛び降りた。3 階の隠し穴のフタは自然と閉じ、ララバイの部屋の天井も元に戻った。

02:36 体や服から血をぬぐった。ララバイには申し訳ないが、怪しまれるわけにもいかない。変装道具を置き、ララバイの部屋を出た。

リビング・ダイニングには、シンフォニーとカプリッチオがいた。  
カプリッチオは「ちょっと話がしたい」と声をかけてきたが無視して部屋へ戻った。一日の疲れが出たのか、気が付いたら私は寝ていた。

06:15 目を覚ますと、泣いていた。

顔を洗って、身支度して、リビング・ダイニングに行った。

06:45 カプリッチオがフーガを呼びに行き、死体を発見した。

Dear Aoi

## キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。

### 昨夜の記録     ???

何を書いてあるか、予想できない。誰も調べないといいな。

### 持ち物 A     アオイのメモ

アオイが僕に遺<sup>のこ</sup>してくれたメモ。長い旅の始まりだった。

「キーワードは夏音。パスワードは bwv1068。スマホかパソコン、どっちかだけでも見てもらえると嬉しいな」

と書かれている。誰にも見られたくない。

### 持ち物 B     ナイフ

昔、ララバイからもらった刃渡り 15cm のアーミーナイフ。あの時は、どんな危険な任務があるのかとドキドキしたが.....。

フーガの死体を刺したとき真っ赤になったが、血はぬぐってある。

効果: エンディング、全体公開することで使用できる。

### 切り札     腕時計

アオイがくれた、最後のプレゼント。星のデザインの腕時計だ。

効果: 不明。

## プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。  
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

BONUS は最終投票の後に時間がありますので、GM にこっそりと教えてください。

**フーガ殺害の犯人を推理する** **0** 点

**生存する** **0** 点

**アオイ殺害の犯人をさがし、<sup>ふくしゅう</sup>復讐する** **9** 点

(エンディング終了時点で)

**アオイのスマホを所持している** **1** 点

BONUS:

**アオイが夏音で何をしていたのか知る** **2** 点

また、『トールス』が何かを GM に伝えると、その時点で追加情報が手に入ります。

## プレイヤーへのアドバイス

- ・犯人として拘束されると、エンディングがどうなろうと動けなくなってしまいます。  
怪しく見られないように気を付けましょう。
- ・切り札を使うときはご慎重に。
- ・作者としては、「アオイ大好き」さえ出してくれば、文句はありません。

## セレナーデ視点の登場人物

### 命より大切な NPC: アリアケ・アオイ／アリア

僕の大切な、たいせつな幼馴染。命をかけてでも守りたい存在を失ってしまった。  
なら、やることはひとつだろう？

### PC1: シンフォニー

はじめて会うが、どこかで見たことがある気がする。χ国を愛している。

### PC2: セレナーデ

自分自身。復讐さえできれば、死んでも構わない。

### PC3: ララバイ

アリアの話をよくしてくれる親切な人。それだけに、疑われそうなものを押し付けてしまったのが心苦しい。人の視線が怖いのか、いつもおびえるように体をすくませている。そのため周りの人からはバカにされているが、潜入の腕は超一流。

夏音専属で働いているらしいが、具体的に何をしているかはよくわからない。

マリボネ市出身と言っていたので、アリアと2人の卒業旅行で行った、と伝えたら、嬉しそうにしていた。

### PC4: キャロル

はじめて会う人。ララバイから「注意しろ」と言われた。

### PC5: カプリッチオ

アオイの元恋人。こんなところにいたのか。

アオイの復讐をするために話を聞きたい、とは思っていても、抵抗感が強い。

### NPC: フーガ

作戦会議ではじめて目にした。こんなに狂った目をした人間だったのか。拷問してでも事件の真相を突き止めたかったが、死んでしまっただけは口なしだ。

### NPC: 民俗学教授

国立コウトスミ大学文学部の教授。大学・大学院時代のアオイの先生らしい。



## 知識・記憶

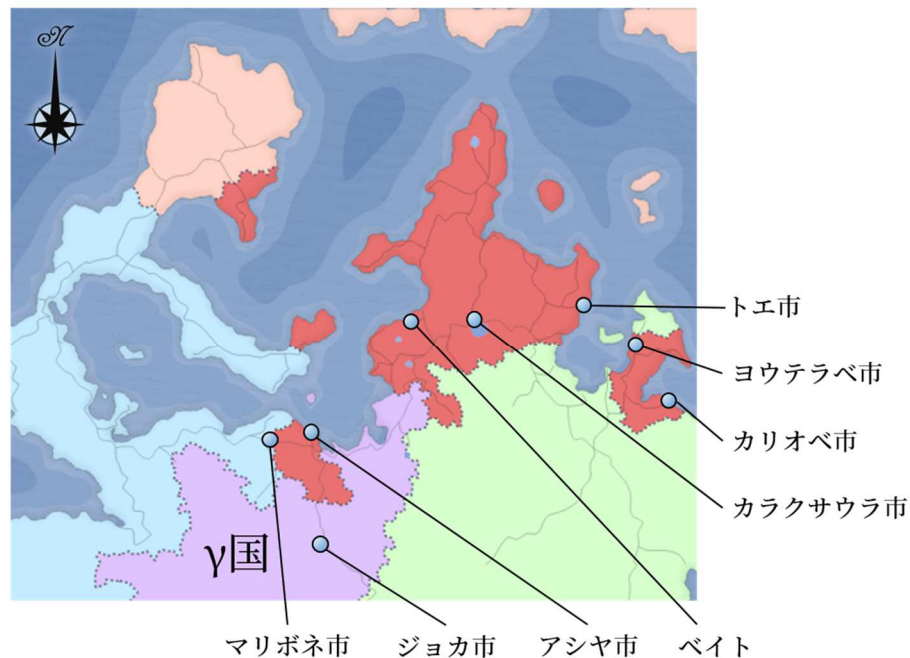
今までの話の補足です。ざっと目を通し、気になったら確認するといいいでしょう。

### χ国

20~30 年前から発展しましたが、3 年前の経済不安以来、雇用状況が悪化しています。

本国のほかに、西の 3 つの飛び地（北西飛び地、西飛び地、南西飛び地）と東に東飛び地があります。（北東の島は飛び地とみなされていない）

飛び地から本国や他の飛び地への交通は制限されており、非常に面倒くさいです。



### トエ市

東飛び地の住人にとって、本国の玄関とも呼べる街。レンとアオイとがはぐれ、「トーラス」のお世話になった街でもあります。

### ヨウテラベ市

レンとアオイの生まれ故郷です。東飛び地にある経済推進都市で、真っ黒な超高層ビル「ファイ」が建っています。ファイ内部には巨大な玄武岩が隠されているとかいないとか。

12 年前に危険カルト集団が摘発され、悪名高くなってしまいました。





## カリオベ市

東飛び地にある、もうひとつの経済推進都市です。寄り添うように立つ二棟の「柱」と、間をつなげる横幅の広い「扉」から、「天の門」として親しまれる超高層ビルが建っています。

## カラクサウラ市

ハルモニアというきれいな湖のある観光地です。経済推進都市ではありません。何かの宗教の聖地だったらしく、アオイは遺跡を見て喜んでいました。

## ベイト

χ国の首都です。経済推進都市ではありません。χ国の心臓と呼ばれるほど経済的にも重要な都市です。アオイは国家総合図書館を見て小おどりにしていました。

## アシヤ市

経済推進都市ではありませんが、非常に発達した港町です。南西飛び地は本国と少し違った古い文化が残っており、卒業旅行先を選んでよかったと感じています。本国ではめずらしい帆船はんせんが停泊しており、アオイと写真を撮りまくりました。

## ジョカ市

ガンマ γ 国の都市です。一帯には古い遺跡が多く、アオイに引きずられるように見てまわった覚えがあります。そんな2人を、γ国のひとは温かく見守ってくれました。

## マリボネ市

ハチミツが名産の、南西飛び地の経済推進都市です。ララバイの出身地でもあります。はちみつ色の超高層ビルからみた景色は今でも忘れられません。最上階でアオイとハチミツアイスクリームを食べました。調子に乗ってかじりついたアオイは、歯がキーンってしていました。

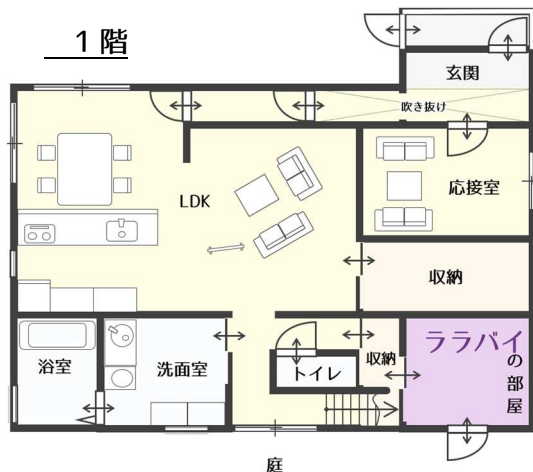
## ヨウテラベ市図書館員自殺

201年11月29日から行方不明となっていたアリアケ・アオイさん（26）が、12月2日朝、ヨウテラベ市郊外、現在使用されていないビルで遺体となって発見されました。警察は人間関係などを原因とする自殺として捜査を進めています。

# Dear Aoi

## 隠れ家

ウラミワ市にある夏音の隠れ家です。2階建ての一軒家に見えますが、3階建てです。  
あなたはララバイから教わったので、隠し扉の向こう側を知っています。

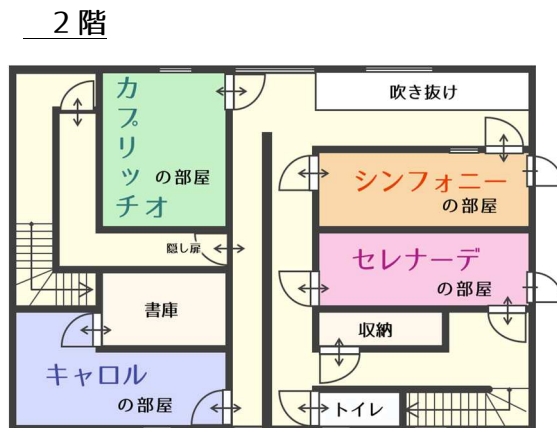


1階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

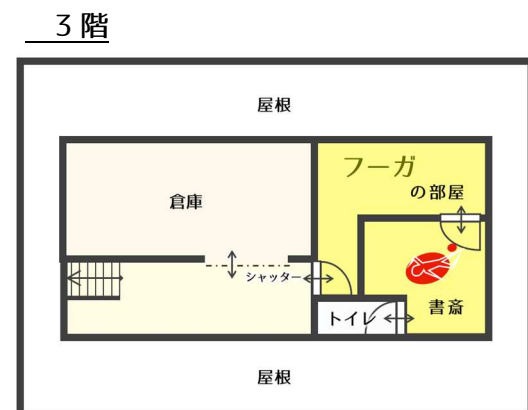
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるされました。



フーガの死体は3階のフーガの『書斎』で発見されました。(赤地に白の人型)

PCの部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。

## A4 一枚でわかる時系列

175/05/20	<u>セレナーデ(レン)</u> が生まれる。
11/30	<u>アリアケ・アオイ(アリア)</u> が生まれる。
194/03	<u>レン</u> と <u>アオイ</u> が高校の卒業旅行に行く。
197/09	<u>アオイ</u> が <u>恋人</u> を紹介。
199/07	経済不安により、雇用状況悪化。
200/04	<u>アオイ</u> がヨウテラベ市に戻り、図書館員として就職。
201/05 中旬	<u>アオイの恋人</u> との連絡が途絶える。
11/29	<u>アオイ</u> が行方不明になる。
11/30	誕生日パーティーの予定。
12/02	<u>アオイの遺体</u> が見つかる。自殺と報道。
202/08	夏音の実行部隊に配属。
11 月 28 日	<u>アリア</u> のスマホの位置情報が更新される。
29 日 20:00	<u>ララバイ</u> と合流後、隠れ家に到着。
22:15	<u>シンフォニー</u> が外出。
22:30	<u>キャロル</u> が外出。
23:17	<u>ララバイ</u> と車でファロス灯台へ行く。
30 日	出がけに <u>シンフォニー</u> と入れ違う。
01:46	帰ると、 <u>シンフォニー</u> がいた。
01:50～	<u>フーガ</u> に変装し3階。 <u>カプリッチオ</u> と <u>キャロル</u> が目撃。
02:22	<u>フーガ</u> の死体発見。ナイフで刺す。
02:32～	縄梯子で <u>ララバイ</u> の部屋へ。出てくるところを <u>カプリ</u>
02:36	<u>ッチオ</u> と <u>シンフォニー</u> が目撃。部屋で就寝。
06:45	死体発見。ゲーム開始。